



啄木は明治45年(1912年)午前9時30分、父一禎、妻節子、歌人若山牧水に看取られながら、東京小石川で永眠しました。26歳と2ヶ月にも満たない短い人生でした。しかし、啄木の文学は短命だった人生とは対照的に、今なお人々の心の中で生き続けています。



櫻井健治氏

「石川啄木連続講座」

今年4月13日は、石川啄木没後100年にあたります。没後100年の意義を再認識するため、「啄木との対話」と題して連続講座を行います

第1回「啄木との対話

～歌集『一握の砂』『悲しき玩具』を通して～

平成24年2月4日(土) 14:00～

歌集『一握の砂』『悲しき玩具』の2冊の歌集からそれぞれ作品を選び、啄木の思い、そして啄木の語りかけに迫るとともに、成長する歌人啄木の姿をみつめます。



第2回「啄木との対話～日記・

評論・感想文を通して～

平成24年3月3日(土)

14:00～

日記文学の最高峰といわれる啄木日記、評論「食ふべき詩」、感想文を取り上げ、啄木が語りかけようとした思いと、これら作品の評価に迫ります。

第3回「啄木との対話～素顔の残像を通して～

平成24年3月24日(土) 14:00～

26年の人生はあまりにも性急すぎる生涯でありましたが、持てる文才を存分に発揮した文学者としての啄木、そして人間性豊かな啄木の魅力を、彼の生き様とその後の評価を通して人間啄木に迫ります。

- ◎ 講師 櫻井健治(さくらいけんじ)氏(日本近代文学会会員)
- ◎ 会場 函館市文学館 参加料 無料
- ◎ 申込み 函館市文学館まで TEL 0138-22-9014